

### 3 高等学校 ホームルーム活動(人権教育)指導案

1 題材 「北朝鮮当局による日本人拉致問題について考える」

2 題材設定の理由

1970年代から1980年代にかけて、北朝鮮当局による日本人拉致が多発した。2016年1月現在、17名が政府によって拉致被害者として認定されている。2002年9月に北朝鮮は日本人拉致を認め、同年10月に5人の被害者が帰国したが、他の被害者については、まだ北朝鮮から納得のいく説明はない。私たちはこの問題を重大な人権課題としてとらえ、他人事ではなく自己の課題として受け止め、意識していくことが求められている。

3 人権教育上のねらい

- (1) 北朝鮮当局による人権侵害問題についての関心と認識を深める。 (知識)
- (2) 被害者やその家族の心の痛みに共感できる感受性を育成する。 (技能)
- (3) それぞれの生徒が拉致問題を自己の課題として受け止め考える。 (態度)

4 展開

◎人権教育上の配慮

段階 時間	学習活動 (○主な発問)	指導上の留意点
導入 10分	1 身近な楽曲等から拉致問題への関心を持つ。 ○歌詞から拉致問題に関わりそうな言葉を探してみましよう？ 2 「横田めぐみさんの拉致の状況」を知る。 3 事件から20年後の記事を読む。 ○この記事から何がわかりますか？	◎拉致は深刻な人権問題であることを感じさせる。 ・20年経ても失踪事件(拉致)の真相が判明していなかったことを読み取らせる。
展開 30分	4 拉致が行われた背景を朝鮮戦争や東西対立という国際関係の視点から理解する。 ○どうして日本人を拉致したのでしょうか？ ○どうしてなかなか帰国できないのでしょうか？ 5 北朝鮮の国情を、年表を読みながら考える。 ○厳しい国内状況に関わらず、ミサイル発射や核実験をくり返すのは何のためでしょうか？ 6 北朝鮮の人権問題や拉致問題、核開発問題などに対する国際的な動きを学ぶ。	・拉致がわかってから現在までの流れを、ポイントを絞って説明する。 ・北朝鮮の状況を理解したうえで、拉致問題の解決に向けて話し合わせる。 ・国際協調の重要性に気付かせる。
まとめ 10分	7 拉致被害者とその家族の心情を理解し、人権課題としての態度を考える。 ○私たちにできることは何でしょうか？ ○留意点は何でしょうか。	◎問題の解決に向けての行動を主体的に考えさせる。 ◎ヘイトスピーチ等に陥らせない。

5 評価

- (1) 拉致問題について関心を持ち、国際情勢を踏まえた認識を深めることができたか。
- (2) 私たち一人一人の課題として拉致問題の解決を考えることができたか。

## 北朝鮮当局による日本人拉致問題について考える

### Q 1 拉致問題って何ですか？

A 1970年代から1980年代にかけて、北朝鮮が、多くの日本人をその意思に反して北朝鮮に連れ去りました。（拉致＝本人が望まないのに連れ去ること）

北朝鮮は、長年にわたり日本人拉致を否定していましたが、2002年9月、北朝鮮の指導者・金正日（キム・ジョンイル）国防委員会（当時）は、小泉総理（当時）との会談において、初めて日本人拉致を認め、謝罪しました。しかし、拉致された日本人のうち、日本に帰国できたのは5名にとどまっています。

政府が、北朝鮮による拉致被害者として認定したのは17名です。またこのほかにも、行方不明の日本人のうち、拉致の可能性を排除できない方々も多くおられ、政府は「認定」の有無にかかわらず全ての拉致被害者を一刻も早く帰国させるように強く求めています。

### Q 2 北朝鮮の政治や暮らしは？

A 第二次大戦後、朝鮮半島は南北に分断され、1948年に北半分では北朝鮮が、南半分では大韓民国（韓国）が成立。1950年には朝鮮戦争が起こりました。1953年の休戦後も、休戦ラインをはさんで両者は対立してきました。

北朝鮮では、成立以来、朝鮮労働党の一党支配が続いています。北朝鮮では、近年、水害や干ばつによる被害が続き、深刻な食糧難やエネルギー不足が起きています。また、国連等の報告書は、拉致問題のほかにも、思想・言論・移動の自由に対する制限など、人権侵害の存在を指摘しています。

### Q 3 なぜ日本人を拉致したのですか？

A 北朝鮮は、自ら主導して朝鮮半島を統一するため、多くのスパイ機関を設立したと言われています。金正日国防委員長（当時）は、日本人を拉致した理由として、（1）北朝鮮のスパイに日本語を教えるため、（2）北朝鮮のスパイが日本人になりすますため、と説明しています。

### Q 4 拉致問題の解決のために、日本政府はどのようなことをしていますか？

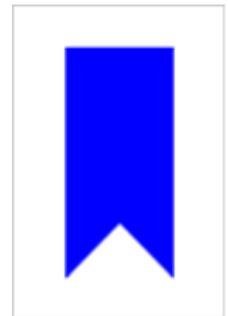
A 我が国は、北朝鮮に対して拉致問題の解決に向けて行動するよう強く要求してきており、例えば、北朝鮮との間の輸出入を禁止するなど、北朝鮮に対して様々な圧力を加えています。また、二国間会談や国際会議の機会を利用し、各国に対し、理解と協力を求めてきています。そして拉致被害者に関する情報収集を行っています。また、拉致の可能性を排除できない方々の捜査・調査を行っています。

Q5 ブルーリボンを知っていますか？

実際は青色

A ブルーリボンは、拉致被害者の救出を求める運動の中で発案されたものです。ブルーの色は、日本と北朝鮮をへだてる「日本海の青」、そして、被害者と家族を結ぶ「青い空」をイメージしています。「北朝鮮による拉致被害者の生存と救出を信じている」意思表示です。

(Q1～Q5 拉致問題対策本部啓発資料等より)



〔 拉致事件関連地図 〕



- 久米 裕 さん
- 松本 京子 さん
- 横田 めぐみ さん
- 田中 実 さん
- 田口 八重子 さん 1
- 地村 保志 さん 2
- 地村(濱本)富貴恵さん
- 蓮池 薫 さん
- 蓮池(奥土)祐木子さん
- 市川 修一 さん
- 増元 るみ子 さん
- 曾我 ひとみ さん
- 曾我 ミヨシ さん
- 石岡 亨 さん
- 松木 薫 さん
- 原 敕晁 さん
- 有本 恵子 さん

( 拉致問題対策本部啓発資料より )

1 の田口 八重子 さんは、埼玉県川口市出身です。

2  は帰国できた方々す。

〔 北朝鮮の説明の問題点 〕

1. 被害者の死亡を証明する客観的な証拠が、まったく示されていません。
2. 「死亡」とされた被害者は、20代～30代の若さでガス中毒、交通事故、心臓麻痺、自殺で死んだとされており、どれも死因が不自然です。また、このほかにも北朝鮮の説明には、不自然な点や矛盾点が多く、説明全体の信憑性が疑われます。
3. 入境していないとされた被害者は、捜査の結果、いずれも北朝鮮の関与が明らかです。北朝鮮が消息をまったく知らないという説明は、そのまま受け入れられません。
4. 北朝鮮は、拉致の責任者を処罰したとしています。しかし、その証拠は部分的で、拉致の責任者が処罰されたとは認めがたいものです。

( 拉致問題対策本部ホームページ「よくわかる拉致問題」より )

## 〔 拉致問題以降の北朝鮮の主な動き 〕

- 1970 年代～1980 年代 拉致問題の発生
- 1994 年 アメリカ合衆国と核開発の凍結に合意
- 1998 年 弾道ミサイルが日本列島を超え太平洋に落下
- 2002 年 核開発継続を認める  
第 1 回日朝首脳会談（北朝鮮が拉致問題を認め謝罪）  
拉致被害者 5 名が帰国
- 2003 年 核不拡散条約（NPT）からの脱退  
六者会合（北朝鮮の核問題を話し合う場）開始
- 2004 年 第 2 回日朝首脳会談  
拉致被害者の家族 8 名が帰国・来日
- 2006 年 弾道ミサイル発射実験（09 年、12 年、14 年、15 年にも実施）  
核実験を行ったと発表（09 年、13 年にも実施）
- 2007 年 経済・エネルギー支援を見返りとして核の無力化合意
- 2010 年 韓国海軍哨戒艦が沈没し 40 名以上が死亡（北朝鮮の関与とされる）  
韓国の延坪島（ヨンピョンド）を砲撃し、韓国の軍人・民間人が 4 名死亡
- 2014 年 日朝政府間協議（ストックホルム）で拉致被害者等の再調査を約束

（参考 外務省ホームページ）

## 〔 国際社会における関心の高まり 〕

日本や韓国だけでなく、帰国した日本人拉致被害者などの証言から、タイ、ルーマニア、レバノンの国民で北朝鮮に拉致された可能性がある方々も存在していることが明らかになったほか、北朝鮮から帰還した韓国人拉致被害者の証言では中国人などの拉致被害者が存在するとされるなど、北朝鮮による拉致問題は国際社会全体の人権問題となっています。

国連においても、近年、日本政府の強い主張を踏まえ、北朝鮮に対し、拉致被害者の即時帰国を含め、問題を早急に解決することを強く要求する決議が毎年採択されています。

また、このような国際社会の機運の高まりを受け、平成 26 年(2014 年)12 月 22 日、人権状況を含む北朝鮮の状況について、国連安全保障理事会で初めて会合が開催され、拉致問題についても議論されました。

サミットなどの国際会議における声明等にも拉致問題に関する記述が盛り込まれるなど、この問題の解決を訴える日本政府の取組は、国際社会の明確な理解と支持を得ています。

（参考 拉致問題対策本部啓発資料）

## 拉致された13歳の少女 横田めぐみさん

今から30年以上前の昭和52年(1977年)11月15日-----

日本海に面した新潟の町から一人の少女が忽然と姿を消しました。

その日の朝、横田めぐみさんは、いつものように、お父さん、お母さん、双子の弟とにぎやかに朝ご飯を食べ、中学校へ出かけていきました。そして、これが家族にとってめぐみさんを見た最後になってしまったのです。

めぐみさんが帰ってこない!!

その日の夕方、クラブ活動のバトミントンの練習を終えて帰ってくるはずのめぐみさんは、いつもの時間になっても帰ってきませんでした。家族は、心配になって、必死でめぐみさんを探しました。警察も、誘拐や事故、家出、自殺などあらゆることを想定して捜査を進めました。けれど、目撃者も遺留品さえも見つかりませんでした。

その夜、めぐみさんは-----

ずっと後になって出てきた証言によると、お父さんとお母さんが必死でめぐみさんを探していたとき、めぐみさんは北朝鮮の工作員に連れ去られ、40時間もの間、北朝鮮に向かう船の中の真っ暗で寒い船倉に閉じこめられていたということです。めぐみさんは、「お母さん、お母さん」と泣き叫び、出入口や壁などあちこち引っかいたので、北朝鮮に着いたときには、手の爪がはがれそうになって血だらけだったと言われています。

明るくて元気なめぐみさん

めぐみさんは、明るく朗らかな少女でした。家族にとって、まるで太陽のような存在でした。歌うのも、絵を描くのも大好きで、習字やクラシックバレエも習っていました。めぐみさんがいなくなる前日の11月14日はお父さんの誕生日。めぐみさんは、お父さんにくしをプレゼントしました。「これからはおしゃれに気をつけてね」という言葉とともに。

家族の悲しみの日々

めぐみさんがいなくなった日から、家族の生活は一変しました。にぎやかだった食卓は火が消えたようになりました。お父さんは毎朝少し早めに家を出て海岸を見て回りました。お母さんも、家事を終えると町のあちこちを歩き回り、めぐみさんの名前を呼びながら海岸を何キロも歩きました。夜になると、お父さんはお風呂で泣きました。お母さんも、家族に分からないように一人で泣きました。どうしてこんな悲しい目にあうのだろう、もう死んでしまいたい、とも考えました。そんな悲しみと苦しみの中、手がかりもないまま時は流れました。---

それから20年後、平成9年(1997年)1月21日-----

めぐみさんが生きている!

めぐみさんが平壤で生きているという情報が入ったのです。お父さんの滋さんとお母さんの早紀江さんは「横田めぐみ」の実名を公表しました。新聞や雑誌が一斉に報道し、国会でも取り上げられました。

日朝首脳会談

平成14年(2002年)9月17日、小泉総理大臣(当時)は北朝鮮を訪問し、金正日国防委員長と初の首脳会談を行いました。滋さんも早紀江さんも、これでやっとめぐみさんに会えるという大きな期待を抱きました。この日、金正日国防委員長は拉致を認め、謝罪したのです。しかし、北朝鮮からの情報は「横田めぐみ死亡」(5人生存、8人死亡、2人未入境)というショッキングなものでした。

納得のいかない北朝鮮の説明

けれど、これは北朝鮮が一方向的に言ってきたことに過ぎません。北朝鮮からは、納得のいく説明や証拠がいまだに示されていないのです。平成16年(2004年)11月、北朝鮮は、めぐみさんの「遺骨」を提出しましたが、鑑定の結果、その一部からはめぐみさんのものと違うDNAが検出されました。

決してあきらめない! あなたをとりもどすまで!

めぐみさんをはじめ、拉致被害者は、かけがえのない人生を奪われました。その家族も、激しい悲しみの中で今も大切な人の帰りを待っています。拉致は重大な人権侵害であり、国家主権の侵害です。一刻も早く、拉致被害者を救い出さなければなりません。早紀江さんはこんなふうに話します。「帰ってきたら、大自然の中につれていってあげたい。北朝鮮では盗聴器や隠しカメラを恐れながら、間違いをしないように一生懸命頑張って暮らしていると思うので、北海道の牧場のようなところで、大の字に寝ころがって、「自由だよー!」って言わせてあげたいと思っています。」

あれから、30年以上たった今も、めぐみさんは北朝鮮に拉致されたままなのです。

(拉致問題対策本部ホームページ「よくわかる拉致問題」より)

## 参考資料

### [参考資料 1]

Missing Persons

サザンオールスターズ, 『葡萄』, TAISHITA, 2015 年 3 月

(著作権により楽曲名のみ紹介します)

### [参考資料 2]

読売新聞

1997 年 2 月 3 日夕刊

当時ようやく拉致は北朝鮮の犯行の可能性を示す情報があると書かれるのみであり、20 年たっても全く誰のどんな目的による犯行か、明確になっていないことがわかる。

(著作権により新聞名、発行年月日のみ紹介します)

### [参考資料 3]

#### コラム：在日朝鮮人への嫌がらせ

「拉致問題」の発覚以降、「日本各地で、朝鮮学校に通う子どもたち多数と朝鮮学校が心ない人たちによる嫌がらせや脅迫的言動に遭っている。例えば、朝鮮学校に通う子どもが、登下校中、駅のホームや電車の中で腕を捕まれる、民族衣装のチョゴリを引っ張られる、『植民地時代に朝鮮人を全員殺しておけばこんなことにはならなかった』・『朝鮮に帰れ』などと言われる、すれ違いざまに『拉致』と言われるなどの被害を受けている。朝鮮学校は、学校のホームページの掲示板への書き込み・手紙・電話などにより、朝鮮学校の子どもに対する危害の予告が行われ、そのために一時的に休校せざるを得なかった例もある」という事態が生じた。そのため、日本弁護士連合会から「在日コリアンの子どもたちに対する嫌がらせ等に関する会長声明・緊急アピール」が出されるに至った。

(参考 日本弁護士連合会公式ホームページ)